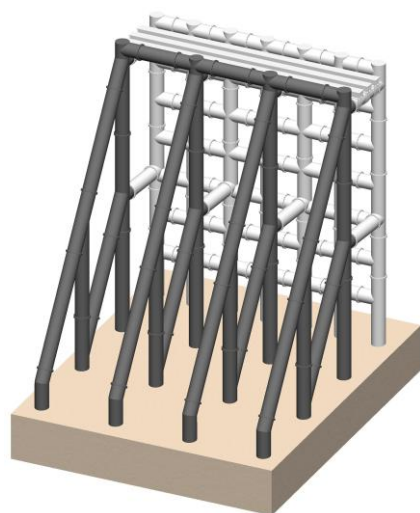


唐突でございますが、当社はさる 3 月末をもって砂防鋼構造物研究会を退会させていただきました。この間、ご指導ご愛顧をいただきました顧客の皆様方やご同業各位に厚くお礼申し上げます。

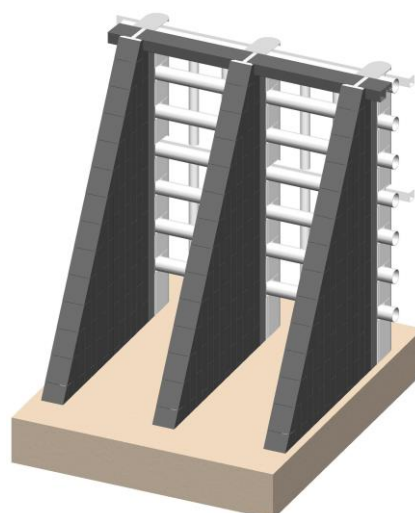
ご高承のとおり、これまでの砂防鋼構造物研究会の活動は主として透過型に限られ、しかもその対象は、基礎工以外は専ら鋼製に限られておりました。そうした中であって、唯一当社の CBBO 型だけが扶壁にコンクリートを登用することによって、鋼管オンリーの骨組扶壁構造が内包するデリケートな問題をクリアしておりました。しかしながら、そのことが研究会内部に不協和音をかもし出していたことは否めず、結果としてその余波が顧客の皆様方にも種々ご迷惑をおかけし、少なからぬ混乱をお招きしていたことも、記憶に新しいところでございます。

ひるがえって、これからの時代の擁壁構造物（透過不透過を問わず、主として水平力を支持する構造物）は、鋼材やコンクリート、さらには現地発生土を活用した複合形式が望ましいという点では、私ども KYOSEI の考え方にいささかのゆらぎもございません。一方で、大手鋼材メーカーさんの側にしても、長年培われた鋼材加工技術の粋を活かした鋼製オンリー路線の踏襲には、格別の思い入れがおありのようです。だとすればこの際は、はやりの下世話なコトバで云えば、〈協議離婚〉の線でいくしかならうというオチになったところであります。

以上の経緯より、今後は大手鋼材メーカーさん主導の研究会を離れて早々に自社サイト上に私的研究会を立上げ、微力ながら治山砂防分野における複合構造形式の開発普及に尽力してまいりますので、これまで同様のご指導とお引立てを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



鋼管骨組構造扶壁



合成鋼コンクリート構造扶壁